

06 心理学専攻

Psychology

(1) 修士課程

● 目的

心理学専攻は、本学建学の理念に基づき、現代の多様な社会的要請に応えるような高度な専門的研究を遂行し得る人材の育成と、さらに建学の理念に基づき、人類の幸福に貢献できるような実践的な専門家の養成を目的とする。

● 修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

心理学専攻は、教育の理念に基づいて定められた下記の3つの力を身につけ、所定の期間在学し、各コースが定める所定の単位を修め、かつ、必要な研究指導を受けたうえで、修士論文を提出してその審査および最終試験に合格した学生に対して修了を認定し、学位を授与する。

DP：ディプロマ・ポリシー

	専門分野の知識や技能の活用力
(DP1)	心理学コースにおいては、神経科学、認知科学、行動科学等最新の科学的知識を身につけ、およびそれらの分野における研究遂行能力を修得していること。臨床心理学コースにおいては、サイエンティスト・プラクティショナーモデルを土台とした実証的な根拠に基づく実践的活動に従事しうる資質と実力が備わっていること。また、両コースとも専門的知識を現代社会における諸問題に活用する汎用性を発揮し、心理学分野における先導者として、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に対応するだけでなく、積極的に提案し、社会に還元していくことができること。
	情報分析、課題設定および問題解決能力
(DP2)	基礎的な知識や先行研究を踏まえ、自ら主体的に課題を設定する力と、さらに高度で専門的な資料、文献、情報を収集・分析して適正に判断・思考しながら、問題解決までの道筋を論理的に展開できる実行力や新たな知見を見出す能力を兼ね備えている。
	コミュニケーション能力
(DP3)	論文作成やプレゼンテーション、実習等を通じて、自らの考えを論理的かつ明確に伝えると同時に、他者の考えと価値観を尊重しつつ、専門的な知見から論理的に意見を述べるなど、主体的に協働することができる。また、研究倫理を踏まえ、適切な方法やツールを用いて研究活動を進め、世界に向けて自らの考えを発信することができる。特に、臨床心理学コースにおいては、公認心理師、臨床心理士としての専門業務に十分に対応できるための高度なコミュニケーション能力を身につける。

● 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

心理学専攻では、「修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」に掲げた3つの能力を養成するために2年間の教育課程を提供する。両コースとも、課程を通じた学習成果としての学位論文・課題研究の審査基準を専攻毎に明確にし、そこから得られた評価結果を基に、コースワーク・リサーチワークの改善を図る。さらに、情報化社会の無限に溢れる情報から論文盗用等が行われないよう、カリキュラムの全ての要素の中で研究倫理に関する意識の醸成を図る。特に、臨床心理学コースでは、国家資格である公認心理師および、(財)日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定大学院としての要件を充足する科目群を中心に教育課程を編成する。教育内容、教育方法、評価については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 講義科目は、心理学分野の専門基礎力および学術研究技術の基礎を涵養し、理論的・実践的基盤を築くために開講する。心理学コースでは、精神と身体に関する基礎科学としての、「生理心理学」、「認知心理学」、「行動分析学」、「社会心理学」等の諸講義、精神と身体の融合を具現化する科学としての「禅心理学」の講義を教育課程の中核に配置している。また、臨床心理学コースにおいては、研究者としての実力を涵養するため、心理学コースにおける各授業科目も履修可能とし、さらに、「実験実習」などの心理学における必須科目を学部で履修していない院生に対しては、学部科目も履修できる。
- 2) 演習科目は、専門領域・研究課題に応じて修士論文の作成上必要とされる指導や議論を繰り返すことにより、緻密な研究指導を行う。また、特に臨床心理学コースにおいては、公認心理師・臨床心理士としての実践活動を十分に踏まえた演習を行う。
- 3) 実習科目は、身につけた知識・技術を、調査・実践の場で活用するために開講する。また、特に臨床心理学コースでは、公認心理師・臨床心理士としての実践活動を十分に踏まえた実習を行う。
- 4) 1～3の集大成として提出される修士論文を完成させ、それについて、審査および最終試験を実施する。

2. 教育方法

- 1) 講義科目では、基礎的な研究手法や研究能力を体得し、少人数での個別・グループ形式で授業を行う。
- 2) 演習科目を中心とする、修士論文の作成指導においては、教員と学生の間で「学位授与の方針」および「学位論文審査基準」を共有し、密接なコミュニケーションを取りながら実施する。
- 3) 実習科目においては、調査・実践の計画の立案、事後の検証について、指導を行う。特に臨床心理学コースにおいては、公認心理師・臨床

心理士としての実践活動に十分に即応した実習を行う。

- 4)それぞれの授業科目を、組織的に履修することにより、専門性を追求しながらも狭量な思考に偏らないよう、指導教員を中心に指導を行う。
- 5)修士論文の審査にあっては、主査1名と副査2名以上で構成される審査委員により、「学位論文審査基準」に則り厳格な審査がなされる。最終試験においては、「学位授与の方針」に基づき、学位授与に必要なとされる専門的な学識、技能、研究能力を身につけていることを詳細に確認する。
- 6)研究倫理教育は、研究科・専攻に拠らない一般的な内容についてはeラーニングなどの方法を用いて広く提供し、各専門分野特有の研究倫理については、研究指導を通じて指導することにより補完する。
- 7)学生調査・アンケート等の結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 評価

心理学専攻では、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)の3つのポリシーに基づき、学生の入学時から修了後までの成長を視野に入れ、教育課程レベル、及び科目レベルで学修成果の評価・測定を行う。特に臨床心理学コースにおいては、公認心理師・臨床心理士といった実践活動に従事することも踏まえて、総合的評価を行う。

● 修了の要件

1. 修士課程に2年以上在学し、30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければならない。
2. 各年次の履修単位数は、原則として1年次は指導教員の演習4単位を含む20単位以上とし、2年次は心理学コースは指導教員の演習4単位以上とし、臨床心理学コースは指導教員の演習4単位を含む6単位以上とする。

【心理学コース】

年次	選択必修科目		選択科目	合計
1年次	指導教員の演習4単位	指導教員の演習以外に12単位以上	10単位以上	30単位以上
2年次	指導教員の演習4単位			

※選択必修科目に指定されている修了必要単位数を超えて修得した単位数は選択科目とし認定されます。

【臨床心理学コース】

年次	必修科目	選択必修科目	選択科目	合計
1年次	16単位	指導教員の演習4単位	16単位以上	44単位以上
2年次	4単位	指導教員の演習4単位		

● 履修上の注意

1. 履修科目の選択にあたっては、指導教員の指導を受け、研究テーマに関連の深い全科目にわたって履修すること。
2. 指導教員が必要と認めた場合には、他専攻の講義科目の中から4単位を上限に履修することができる。なお、他専攻履修をする場合は、その科目の担当教員の承諾を得ること。
3. 他専攻修得単位・協定(認定)校留学により修得した単位は合計10単位を上限として、修了に必要な単位として認定することができる。
4. 他系統学部出身者には、当該専攻の基礎学部出身者と同等の基礎学力を充足させるため、大学院の正規授業科目以外に指導教員が必要と認めた場合、学部で開講している関連基礎科目(指導教員の指定する科目)の特別履修を課すことがある。ただし、関連基礎科目の単位は認定しない。
5. 一度単位を修得した科目は、担当が異なっても再度履修することはできません(指導教員の演習科目を除く)。

● 学位論文について

〈中間発表・報告会〉

修士2年次の7月に中間発表会を専攻全体で行う。20分間のプレゼンテーションの後、専攻の教員および参加者による質疑応答を行う。講評は、全員の発表後、各教員から口頭で行う。

〈学位論文審査基準〉

1. 研究目的が明確かつ具体的に記述されており、その独創性と研究の価値がこれまでの心理学研究の蓄積の上に適切に位置づけられていること
2. 研究デザイン、結果の分析、結論の導出などが再現可能な実証的方法で実施されていること
3. 論文の体裁が国際的な論文作成のガイドラインである「アメリカ心理学会出版マニュアル」および日本心理学会の「執筆・投稿の手引き」に準拠したものであること
4. 各種学会、大学、専攻等が定める倫理基準を満たしたものであること

〈論文審査・学識確認〉

審査員は、主査1名、副査2名で構成され、副査には必要に応じて他の専攻、大学、研究所などに所属する専門家を含むことがある。最終試験は、提出された論文を踏まえ、審査員が、口頭試問形式により学識確認を行う。上記審査基準により、主査・副査が点数を付け、その平均点をもつ

て修士論文の評点とする。成績評価は履修科目と同様の基準で付される。

なお、論文作成要領・提出要領と、提出された論文の取扱いについては、21ページ以降を参照すること。

● ルーブリック【修士論文・課題研究】

DP	評価項目	評価の視点	S	A	B	C
1)	研究主題の設定理由・目的の明確性	発展可能性	より重要な研究へと発展することが確実なテーマである	より重要な研究へと発展することが可能なテーマである	より重要な研究へと発展する可能性の有無についてははっきりしない	より重要な研究への発展する可能性の見込めないテーマである
		目的の明示	研究の目的が明確に述べられており、その目的のために当該研究で何をどう進めていくのかというプランも明確にされている	研究の目的は述べられており、その目的を達成するためにどのように進めていくのかもほぼ明らかである	研究の目的はおおよそ述べられているが、その目的を達成するためにどのように進めていくかはやや不明確である	研究の目的が明確には述べられていない
2)	研究の社会的意義・貢献性	研究の社会的意義・貢献性	現代社会、国際社会における課題の解決や理解の深化に直接関連するテーマを設定している	現代社会、国際社会における課題の解決や理解の深化に関連するテーマを設定している	現代社会、国際社会における課題の解決や理解の深化にほとんど関連しないテーマを設定している	現代社会、国際社会における課題の解決や理解の深化とは無関係なテーマを設定している
3)	研究の主体性・独自性	独自性	関連する先行研究を網羅した上で、当該論文のテーマが独創的であることが明確に示されている	関連する先行研究に当該論文と類似するテーマがないわけではないが、独自性を有すると認められる	すでにほぼ同様のテーマの先行研究があるが、独自性を有するとも言える	すでに、同様のテーマの先行研究が存在しており、独自性は認められない
4)	研究方法論の適切性・妥当性	計画・準備	指導教員との協議を通して研究計画書を作成し、研究レビュー、データ収集、分析、執筆など具体的な活動をいつ実施するか明確である	指導教員との協議を通して研究計画書を作成し、研究レビュー、データ収集、分析、執筆など具体的な活動をいつ実施するかほぼ明確である	指導教員との協議を通して研究計画書を作成したが、研究レビュー、データ収集、分析、執筆など具体的な活動をいつ実施するかやや不明確である	いつ何をどこまで進めるか研究計画が立てられていない
		研究倫理	研究に関わる倫理上の問題について、大学が指定した研究倫理eラーニングを受講し、十分に考慮し、必要な対応を済ませた上で、研究活動を行っている	研究に関わる倫理上の問題について、大学が指定した研究倫理eラーニングを受講し、十分な考慮と必要な対応を行っている	大学が指定した研究倫理eラーニングを受講したが、研究に関わる倫理上の問題への考慮・対応が十分とはいえない	大学が指定した研究倫理eラーニングを受講しておらず、研究に関わる倫理上の問題について検討していない
		研究方法の適切性	研究目的を達成するために最もふさわしいと考えられる研究方法を選択している	研究目的を達成するのに適していると考えられる研究方法を採用している	研究目的を達成するのにふさわしい研究方法であるかやや疑問である。あるいは他にさらに適当な方法が存在している	研究目的と研究方法が合致していない
5)	引用された文献・資料の十分性・適切性・妥当性	データ・資料の量	研究目的を達成するために選択した研究方法、分析方法を実施するのに十分適合する量のデータ・資料を収集している	研究目的を達成するために選択した研究方法、分析方法を実施するのにほぼ十分な量のデータ・資料を収集している	データ・資料を収集しているが、選択した研究方法、分析方法を実施するのに十分な量とはいえない	収集した量のデータ・資料では、選択した研究方法、分析方法を実施できない
6)	結果考察の妥当性	結果の表現	結果を適切に表現するために、適切な図表等が作成・配置されている	結果を適切に表現するために必要な図表等がおおよそ作成されており、ほぼ問題なく配置されている	結果を表現するために図表等が用いられているが、必要とはいえないものや冗長なものがあつたり、ないために理解しにくい箇所がある	結果を表現するために必要な図表等がほとんど作成されていない
7)	論旨の一貫性・連続性・論理性	結果の解釈とまとめ	参考資料や得られたデータに基づいて客観的で公平な解釈をおこなっている。予測や仮説に一致しない結果も重要な結果として捉えている	参考資料や得られたデータに基づいて客観的で公平な解釈をおこなっている。予測や仮説に一致しない結果は例外として処理している	結果の解釈そのものに歪曲はないが、一部に予測や仮説に一致した点だけを結果として捉えている箇所がある	予測や仮説に一致する結果だけを報告している、あるいは結果の解釈に一部歪曲が認められる
8)	当該専門分野における先行研究の成果を十分に踏まえているか	成果の水準	心理学分野において、これまで解決できなかったことを解決する知見、あるいは新しい事象の発見を参考資料や得られたデータに基づいて提供している	心理学分野において有意義な知見や発見を参考資料や得られたデータに基づいて提供している	得られた知見が、心理学分野において有意義なものといえるかどうか、やや疑問が残る	心理学分野において有意義な知見が得られたとはいえない
9)	独自の研究成果が学術論文の形式でまとめられているか	記述法・ルール	論文の本文は学術的な記述法で書かれ、日本心理学会「執筆・投稿の手引き」に従って書かれている	論文の本文は学術的な記述法で書かれ、日本心理学会「執筆・投稿の手引き」にもほぼ従っている	論文の本文は学術的な記述法で書かれたというには不十分であり、日本心理学会「執筆・投稿の手引き」に従っていない部分がある	論文の本文は学術的な記述法で書かれておらず、日本心理学会「執筆・投稿の手引き」にもあまり従っていない

●… 研究計画書や中間発表の時のみのチェック項目

● 開講科目

【心理学コース】※本表以外の臨床心理学コースの科目は履修できない。

選 必 ・ 選	修 了 必 要 単 位 数	授 業 科 目	学 習 方 法	単 位 数	開 講 期 間	担 当 者	DPとの関連性			備 考
							DP1	DP2	DP3	
1・2年次選択必修科目（指導教員の演習4単位を毎年度履修すること）										
8 単 位		認知心理学研究 a・b	演習	各2	前期 後期	永 田 陽 子	○	◎	○	
		行動分析学研究 a・b	演習	各2	前期 後期	久 保 尚 也	○	◎	○	
		社会心理学研究 a・b	演習	各2	前期 後期	長谷川 孝 治	○	◎	○	
		生理心理学研究 a・b	演習	各2	前期 後期	岩 城 達 也	○	◎	○	
選択必修科目（12単位以上）										
選 択 必 修 科 目	12 単 位 以 上	禅心理学研究（1） a・b	講義	各2	前期 後期	加藤 博己（前期） 鈴木 常元（後期）	◎	○	○	（隔年開講のため本年度休講）
		禅心理学研究（2） a・b	講義	各2	前期 後期	加藤 博己（前期） 鈴木 常元（後期）	◎	○	○	
		行動分析学研究（1） a・b	講義	各2	前期 後期	久 保 尚 也	◎	○	○	（隔年開講のため本年度休講）
		行動分析学研究（2） a・b	講義	各2	前期 後期	久 保 尚 也	◎	○	○	
		社会心理学研究（1） a・b	講義	各2	前期 後期	長谷川 孝 治	◎	○	○	（隔年開講のため本年度休講）
		社会心理学研究（2） a・b	講義	各2	前期 後期	長谷川 孝 治	◎	○	○	
		生理心理学研究（1） a・b	講義	各2	前期 後期	岩 城 達 也	◎	○	○	（隔年開講のため本年度休講）
		生理心理学研究（2） a・b	講義	各2	前期 後期	岩 城 達 也	◎	○	○	
		認知心理学研究（1） a・b	講義	各2	前期 後期	今井 久登（前期） 永田 陽子（後期） 浅川 伸一（後期） 竹市 博臣（後期）	◎	○	○	（隔年開講のため本年度休講）
認知心理学研究（2） a・b	講義	各2	前期 後期	今井 久登（前期） 永田 陽子（後期） 浅川 伸一（後期） 竹市 博臣（後期）	◎	○	○			
選択科目（10単位以上）										
選 択 科 目	10 単 位 以 上	保健医療分野に関する理論と支援の展開	講義	2	前期	川 嶋 新 二	◎	○	○	
		福祉分野に関する理論と支援の展開	講義	2	前期	宮 本 明日香	◎	○	○	
		司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	講義	2	後期	市 村 彰 英	◎	○	○	
		産業・労働分野に関する理論と支援の展開	講義	2	前期	隅 谷 理 子	◎	○	○	
		家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	講義	2	前期	藤 田 博 康	◎	○	○	

【臨床心理学コース】

選 必 ・ 選	修 了 必 要 単 位 数	授 業 科 目	学 習 方 法	単 位 数	開 講 期 間	担 当 者	DPとの関連性			備 考
							DP1	DP2	DP3	
1年次必修科目（16単位）										
必 修	16 単 位	臨床心理学特論 a・b	講義	各2	前期 後期	鈴木菜実子（前期） 岡島 純子（後期）	◎	○	○	
		臨床心理面接特論 I-1 （心理支援に関する理論と実践）	講義	2	前期	鈴 木 常 元	◎	○	○	
		臨床心理面接特論 I-2	講義	2	後期	藤 田 博 康	◎	○	○	
		臨床心理査定演習 I-1 （心理的アセスメントに関する理論と実践）	演習	2	前期	遠 藤 步	○	◎	○	
		臨床心理査定演習 I-2	演習	2	後期	鈴 木 菜 実 子	○	◎	○	
		臨床心理実習 I-1 （心理実践実習 - 学内実習）	実習	1	後期	岡 島 純 子 鈴 木 菜 実 子 遠 藤 步 藤 田 博 康 江 口 沙	◎	○	◎	
		臨床心理実習 I-2 （心理実践実習 - 保健医療）	実習	1	後期	岡 島 純 子 藤 田 博 康 江 口 沙	◎	○	◎	
		臨床心理基礎実習	実習	2	通年	岡 島 純 子 鈴 木 菜 実 子 遠 藤 步 藤 田 博 康	◎	○	◎	（2時限通し）
2年次必修科目（4単位）										
必 修	4 単 位	臨床心理実習 II-1 （心理実践実習 - 学内実習） a・b	実習	各1	前期 後期	岡 島 純 子 鈴 木 菜 実 子 遠 藤 步 藤 田 博 康 江 口 沙	◎	○	◎	
		臨床心理実習 II-2（事例研究）	実習	2	通年	岡 島 純 子 鈴 木 菜 実 子 遠 藤 步 藤 田 博 康	◎	○	◎	
1・2年次選択必修科目（指導教員の演習4単位を毎年度履修すること）										
選 択 必 修 科 目	8 単 位	臨床心理学研究（1） a・b	演習	各2	前期 後期	永 田 陽 子	○	◎	○	
		臨床心理学研究（2） a・b	演習	各2	前期 後期	鈴 木 常 元	○	◎	○	
		臨床心理学研究（3） a・b	演習	各2	前期 後期	上 島 奈 菜 子	○	◎	○	（本年度休講）
		臨床心理学研究（4） a・b	演習	各2	前期 後期	岡 島 純 子	○	◎	○	
		臨床心理学研究（5） a・b	演習	各2	前期 後期	藤 田 博 康	○	◎	○	
		臨床心理学研究（6） a・b	演習	各2	前期 後期	遠 藤 步	○	◎	○	
		臨床心理学研究（7） a・b	演習	各2	前期 後期	鈴 木 菜 実 子	○	◎	○	

【臨床心理学コース】

選 必 ・ 選	修 了 必 要 単 位 数	授 業 科 目	学 習 方 法	単 位 数	開 講 期 間	担 当 者	DPとの関連性			備 考
							DP1	DP2	DP3	
選択科目 (16単位以上)										
選 択 科 目	16 単 位 以 上	保健医療分野に関する理論と支援の展開	講義	2	前期	川 嶋 新 二	◎	○	○	
		福祉分野に関する理論と支援の展開	講義	2	前期	宮 本 明日香	◎	○	○	
		教育分野に関する理論と支援の展開	講義	2	前期	黒 沢 幸 子	◎	○	○	
		司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	講義	2	後期	市 村 彰 英	◎	○	○	
		産業・労働分野に関する理論と支援の展開	講義	2	前期	隅 谷 理 子	◎	○	○	
		家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	講義	2	前期	藤 田 博 康	◎	○	○	
		心の健康教育に関する理論と実践	講義	2	前期 集中	隅 谷 理 子	◎	○	○	
		投影法特論 a・b	講義	各2	前期	兼 城 賢 志	◎	○	○	
		認知心理学研究 a・b	演習	各2	前期 後期	永 田 陽 子	◎	○	○	
		禅心理学研究 (1) a・b	講義	各2	前期 後期	加藤 博己 (前期) 鈴木 常元 (後期)	◎	○	○	(隔年開講のため本年度休講)
		禅心理学研究 (2) a・b	講義	各2	前期 後期	加藤 博己 (前期) 鈴木 常元 (後期)	◎	○	○	
		行動分析学研究 (1) a・b	講義	各2	前期 後期	久 保 尚 也	◎	○	○	(隔年開講のため本年度休講)
		行動分析学研究 (2) a・b	講義	各2	前期 後期	久 保 尚 也	◎	○	○	
		社会心理学研究 (1) a・b	講義	各2	前期 後期	長谷川 孝 治	◎	○	○	(隔年開講のため本年度休講)
		社会心理学研究 (2) a・b	講義	各2	前期 後期	長谷川 孝 治	◎	○	○	
		生理心理学研究 (1) a・b	講義	各2	前期 後期	岩 城 達 也	◎	○	○	(隔年開講のため本年度休講)
		生理心理学研究 (2) a・b	講義	各2	前期 後期	岩 城 達 也	◎	○	○	
		認知心理学研究 (1) a・b	講義	各2	前期 後期	今井 久登 (前期) 永田 陽子 (後期) 浅川 伸一 (後期) 竹市 博臣 (後期)	◎	○	○	(隔年開講のため本年度休講)
		認知心理学研究 (2) a・b	講義	各2	前期 後期	今井 久登 (前期) 永田 陽子 (後期) 浅川 伸一 (後期) 竹市 博臣 (後期)	◎	○	○	
		臨床心理実習Ⅱ-3 (心理実践実習 - 保健医療)	実習	1	後期	岡 島 純 子 鈴 木 常 元 江 口 理 沙	◎	○	◎	
臨床心理実習Ⅱ-4 (心理実践実習 - 教育/福祉/司法/産業・労働)	実習	1	後期	岡 島 純 子 鈴 木 菜 実 遠 藤 理 沙	◎	○	◎			

◎：特に重視している ○：重視している

(2) 博士後期課程

● 目的

心理学専攻は、本学建学の理念に基づき、独創的・自立的研究の実践が可能な人材の育成を目指すとともに、かつ専門教育指導者の涵養を目的とする。

● 修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

心理学専攻は、教育の理念に基づいて定められた下記の3つの能力を身につけ、所定の期間在学し、本専攻が定める所定の単位を修め、必要な研究指導を受けたうえで、博士論文を提出してその審査および最終試験に合格した学生に対して修了を認定し、学位を授与する。なお、博士論文の提出要件については別記定める。

DP：ディプロマ・ポリシー

	高度な専門分野の知識や技能の活用力
(DP1)	心理学分野に関する高度な学識と、幅広い知見を身につけている。また、それらを総合的に活用する汎用性を発揮し、心理学分野における先導者として、広く社会に向けて新たな知見や価値を創造・提案し、還元していくことができる。
	情報分析、課題設定および問題解決能力
(DP2)	自立した研究者として、独創的な観点から課題を設定し、専門的な学識や技能を用いながら継続的な研究遂行と研究結果の蓄積・収れんを行うことができる。また、伝統的な研究技法だけでなく、最先端のツールや手法を駆使し、専門情報を収集し、それらの分析によって、今までにない知見を導き出すことのできる高度な判断力を有する。
	コミュニケーション能力
(DP3)	学術論文執筆や学会発表などを通じて、自らの独創的な研究結果や新たな知見を国内外の学界に発信すると同時に、他者の考えと価値観を尊重しつつ、専門的な知見から論理的に意見を述べるなど、主体的に協働することができる。また、研究倫理を踏まえ、適切な方法やツールを用いて自らの研究業績を発信し、自ら導き出した新知見の社会的な活用や定着を模索することができる。

● 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

心理学専攻博士後期課程では、「修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」に掲げた3つの能力を養成するために、心理学専攻の学問分野・領域の特性に応じた3年の教育課程を提供する。

また、課程を通じた研究の成果として提出される、博士論文の審査基準を明確にし、博士論文の評価結果を基に、学位を授与された者がさらなる研究の向上・進展を図ることができるように指導を行う。同時に、リサーチワークのあり方や社会的責任について改善を図る。

さらに、情報化社会の無限に溢れる情報から論文盗用等が行われないよう、カリキュラムの全ての要素の中で研究倫理に関する意識の醸成を図る。

教育内容、教育方法、評価については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

心理学専攻博士後期課程の教育課程は、「講義」と「研究指導」からなる。「講義」と「研究指導」は独立したものではなく、有機的な連関をもって展開される。院生が最先端の研究に従事できるような環境を整備し、そしてその研究成果を積極的に学会に発表し、さらに学術論文として公表できるよう支援体制を整えている。

2. 教育方法

1) 講義科目は、豊かな専門知識と研究能力のさらなる向上を目的として、先行研究の批判的検討、文献講読、実験指導、データ収集指導、論文作成等に関わる教授と指導を行う。

2) 研究指導科目は、専門領域・研究課題に応じて博士論文作成上必要とされる指導や議論を繰り返すことにより、緻密な研究指導を行う。

3. 評価

心理学専攻博士後期課程では、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)の3つのポリシーに基づき、学生の入学時から修了後までの成長を視野に入れ、学修成果の評価・測定を行う。

● 修了の要件

1. 博士後期課程に3年以上在学し、かつ、所定の科目(指導教員の講義)について12単位以上修得し、必要な研究指導を受けたうえで、博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければならない。

2. 指導教員の講義と研究指導は、毎年履修すること。

年次	必修科目	選択科目	合計
1年次	指導教員の講義4単位および研究指導	修得単位は任意	12単位以上
2年次	指導教員の講義4単位および研究指導		
3年次	指導教員の講義4単位および研究指導		

● 履修上の注意

指導教員が必要と認めた場合は、選択科目として指導教員以外の講義を履修することができる。その場合は、その科目の担当教員の承諾を得ること。

● 学位論文について

〈中間発表・公聴会〉

博士論文提出年度の7月までに中間発表会を専攻全体で行う。30分間のプレゼンテーションの後、専攻の教員および参加者による質疑応答を行う。講評は、各教員から口頭で行う。

〈学位論文提出要件〉

1. 所定の時期に仮論題を提出し、受理されていること。
2. 該当する論文がすでに学術論文(単著か、共著の場合は提出者が第一執筆者である研究論文)や学会発表(第一発表者)の形で公表され、相当の評価を得ていること。
3. 学術論文に関しては、国内・国外の審査のある学術雑誌に掲載された論文が原著論文1編を含めて合計2編以上あること。ただし、原著論文がなくすべてが資料や短報等である場合は、それらが原著論文に匹敵する体裁を備えている場合に限り、2編をもって原著論文1編とみなすことができる。
4. 当該研究に対する公的な評価(研究費や賞、またはそれに準ずるもの)が示されていることが望ましい。

〈事前審査〉

博士論文提出年度の9月に予備審査を受けるものとする。

〈学位論文審査基準〉

1. 研究目的が明確かつ具体的に記述されており、その独創性と研究の価値がこれまでの心理学研究の蓄積の上に適切に位置づけられていること。
2. 研究デザイン、結果の分析、結論の導出などが再現可能な実証的方法で実施されていること。
3. 論文の体裁が国際的な論文作成のガイドラインである「アメリカ心理学会出版マニュアル」および日本心理学会の「執筆・投稿の手引き」に準拠したものであること。
4. 各種学会、大学、専攻等が定める倫理基準を満たしたものであること。
5. 論文の内容が心理学ないし心理学に関連する領域において十分な学術的価値があると審査委員全員が認める独創的知見ないし集大成的知見を含んでいること。
6. 論文提出者が論文審査の時点において、博士(心理学)の学位を保持するに値するだけの十分な心理学に関する知識を所有し、かつ博士(心理学)の学位を授与するにふさわしいと判定される識見を持った人物であること。

〈論文審査・学識確認〉

審査員は、主査1名、副査2名以上で構成され、副査には必要に応じて他の専攻、大学、研究所などの専門家を含むことがある。上記の基準により、論文審査を実施する。最終試験は、審査員が、提出された論文に基づき、口答または筆答による学識確認を行い、外国語試験は予め申請した1か国語(母語は不可)で実施する。審査結果は、研究科委員会において報告される。

なお、論文提出要領等については、25ページ以降を参照すること。

● 開講科目

科目名称	学習方法	単位数	担当者	DPとの関連性			備考
				DP1	DP2	DP3	
心理学特殊研究Ⅰ a・b	講義	各2	藤田博康	◎	○	○	
心理学研究指導Ⅰ a・b	研究指導	—		◎	◎	○	
心理学特殊研究Ⅱ a・b	講義	各2	遠藤歩	◎	○	○	
心理学研究指導Ⅱ a・b	研究指導	—		◎	◎	○	
心理学特殊研究Ⅲ a・b	講義	各2	鈴木菜実子	◎	○	○	
心理学研究指導Ⅲ a・b	研究指導	—		◎	◎	○	
心理学特殊研究Ⅳ a・b	講義	各2	岩城達也	◎	○	○	
心理学研究指導Ⅳ a・b	研究指導	—		◎	◎	○	
心理学特殊研究Ⅴ a・b	講義	各2	長谷川孝治	◎	○	○	
心理学研究指導Ⅴ a・b	研究指導	—		◎	◎	○	
心理学特殊研究Ⅵ a・b	講義	各2	久保尚也	◎	○	○	
心理学研究指導Ⅵ a・b	研究指導	—		◎	◎	○	
心理学特殊研究Ⅶ a・b	講義	各2	永田陽子	◎	○	○	
心理学研究指導Ⅶ a・b	研究指導	—		◎	◎	○	

◎：特に重視している ○：重視している